

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ベイビーピース
施設所在地	江戸川区船堀2-15-17ドウェル船堀105

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

1年間を通して表現することを楽しめるよう、造形(色々な教材に触れられる)の場を設け、子ども達の興味関心・探求心を広げていく。日頃の保育に制作活動を入れるほか、カワイ造形教室の講師に来てもらう場を設け、子ども達の「何だろう」「やってみたい」の気持ちを大切に、表現することを楽しめるように環境を整える。

2. 活動スケジュール

- ・カワイ造形教室…月に2回(隔週木曜日)。テーマに沿って造形活動を行う。
- ・クラスごと…月案・週案に制作活動・絵本やパネルシアター等での導入を設定する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・1年間を通してクラスごとの季節の制作や、カワイ造形教室での表現活動に必要な教材を用意した(絵の具、折り紙、色画用紙、のり、ボンド等)
- ・保育士体制を充実させ、一斉活動ではなく興味を示した子から参加できる環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・カワイ造形教室…月に2回、講師の考えたテーマやねらいに沿って活動に参加した。
・クラスごと…月齢にあわせた教材を使用し、表現することを楽しんだ。季節の制作だけでなく、日頃から色々な素材に触れ、五感を使って遊んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・造形の講師や保育者との関わりを持ちながら、夢中になって制作活動を行った。クレヨン、絵の具、のり、はさみなどの教材の使い方も、初めは大人が見本を見せ模倣から始まったが、繰り返し取り組むことで一人ひとりの「できた!」「おもしろい!」「楽しい!」の瞬間に立ち会うことができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・造形教室では、はじめは「難しい、できない」という子や、興味関心を示さない子もいたが、保育者が無理強いせず個々のペースでの参加を認めるなど、環境を整えることで段々と参加する時間が増えていった。月齢に合わせたねらいの中で、普段あまり使うことのできない教材(絵の具や粘土)にも触れ、自然と探求心が広がる様子が見られた。また、保育者以外の大人との関わりを通して、楽しかった経験を重ねることができた。

・日々の制作活動では、同じテーマでも月齢によって準備・工程・保育者の関わり方の違いや難しさを感じた。また、子どもの探求心を育てるには、保育者が決めたことをやらせるのではなく、子どもの興味関心に合わせ教材を増やしていくなど発展のさせ方、つまり【環境】が何よりも重要ということが分かった。